

(電子メール施行)
農技第 1414 号
令和3年9月15日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和3年度病虫害発生予報第5号を發表します。

令和3年度病虫害発生予報 第5号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	トビイロウンカ	平年並	やや少
ダイズ	紫斑病	やや多	平年並
	立枯性病害	やや多	やや多
	べと病	やや多	平年並
	葉焼病	やや多	平年並
	ハスモンヨトウ	やや多	平年並
	吸実性カメムシ類	やや多	平年並
野菜共通	ハイマダラノメイガ	やや多	平年並
	ハスモンヨトウ	やや多	平年並
	シロイチモジヨトウ	やや多	平年並
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多	平年並

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(9月11日から10月10日までの天候見通し)

令和3年9月9日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

近畿地方 1か月予報(09/11~10/10)		
2021年09月09日14時30分 大阪管区气象台 発表		
向こう1か月 09/11~10/10	天候	天気は数日の周期で変わるでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率50%です。
1週目 09/11~09/17	気温	1週目は、高い確率50%です。
2週目 09/18~09/24	気温	2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
3~4週目 09/25~10/08	気温	3~4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 09/11~10/10	20 30 50
		1週目 09/11~09/17	20 30 50
		2週目 09/18~09/24	20 40 40
		3~4週目 09/25~10/08	20 40 40
降水量	近畿地方	向こう1か月 09/11~10/10	30 40 30
日照時間	近畿太平洋側	向こう1か月 09/11~10/10	40 30 30
	近畿日本海側	向こう1か月 09/11~10/10	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【トビイロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 県下3か所に設置している予察灯のうち、朝来市（北部農技内）で8月6半旬（8月26日）に誘殺が確認されている。これは、今年度の予察灯における初確認である。また、南あわじ市（淡路農技内）でも同時期に誘殺が確認されており、前述の朝来市の誘殺とともにJPPネットの飛来予測と一致していることから、海外からの飛来であったと考えられるが、時期的に「坪枯れ」に至るおそれは少ない。ただし、無防除や多収性品種を栽培しているところでは、坪枯れが発生するおそれがあるので、注意する。

イ 8月下旬の関係機関による調査では一部地域で圃場での発生が確認されている。
ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、秋にむけて増殖が進み、平年並の発生になると考えられる。

ダイズ

1 【紫斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の場内圃場（加西市）では、白大豆で発病株率5.0%（平年値0.0%）と例年より早い発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されており、本病の発生に助長的であるため、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 密植・過繁茂の圃場で発生が多いので、茎葉や枝の切除をして風通しを良くする。

イ 被害茎葉は、次年度以降の感染源になるため、圃場外に持ち出し適切に処分する。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

2 【立枯性病害】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の場内圃場（加西市）では、黒大豆で発病株率1.0%（平年値0.0%）と例年より早い発生が確認されている。8月下旬の現地調査では発病株率1.5%

(同0.4%)、発生圃場率47.2%(同19.9%)とやや多い発生が確認されている。
イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されており、やや多い発生のまま推移すると考えられる。

(3) 防除上の留意点

- ア 本病は圃場の排水不良で助長されるため、圃場の排水促進に努める。
- イ 被害株は、次年度以降の感染源になるため、圃場外に持ち出し適切に処分する。
- ウ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)

(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

3 【べと病】

(1) 予報の内容

発生量： **やや多**

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の場内圃場(加西市)で発生は確認されていない。8月下旬の現地調査では発病株率11.3%(平年値1.1%)、発生圃場率25.0%(同9.8%)の発生が確認されているが、局所的であり、県全体としては平年並の発生である。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。降雨による多湿で、本病の発生が助長され、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

- ア 密植・過繁茂の圃場で発生が多いので、茎葉や枝の切除をして風通しを良くする。
- イ 被害茎葉は、次年度以降の感染源になるため、圃場外に持ち出し適切に処分する。
- ウ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)

(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

4 【葉焼病】

(1) 予報の内容

発生量： **やや多**

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の場内圃場(加西市)では、黒大豆で発病株率10.0%(平年値8.0%)の発生が確認されている。8月下旬の現地調査では発病株率4.9%(同0.7%)、発生圃場率25.0%(同13.8%)の発生を確認しているが、局所的であり、県全体としては平年並の発生である。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されている。本病は高温性の病害であるため、発病が助長され、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

- ア 被害茎葉は、次年度以降の感染源になるため、圃場外に持ち出し適切に処分す

る。

イ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

5 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の場内圃場（加西市）では幼虫の発生は確認されていない。8月下旬の現地調査では白変葉が0.3カ所/a（平年値0.2カ所/a）、地点率19.4%（同15.7%）と平年並の発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件となり、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

イ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢期の防除を徹底する。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

6 【吸実性カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の場内圃場（加西市）では発生は確認されていない。8月下旬の現地調査では10株あたりの虫数0.3頭（平年値0.4頭）、発生圃場率は22.2%（同23.6%）と平年並の発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、カメムシ類の活動が活発になり、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 着莢期に成虫が飛来し、吸汁や産卵をする。成虫は好適な餌がある場所を求めて移動するが、卵からふ化した幼虫はそのまま滞在し、黄熟期まで加害し続けるため、薬剤散布は着莢期から10日間隔で2～3回実施する。

イ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

野菜共通

1 【ハイマダラノメイガ】（アブラナ科野菜）

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 加西市（農技センター内）で実施している誘致植物^{※1}（クレオメ）での調査では、7月以降、寄生花枝率^{※2}は増加傾向を示しており、8月中も平年よりもやや高い寄生率であったが、9月上旬の寄生花枝率は21.6%（平年値32.3%）と平年並である。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件となり、やや多い発生になると考えられる。

※1 対象とする害虫が好む植物で、発生状況を調べるために用いられる。

※2 クレオメは頂部に花が咲く分枝（花枝）を連続して展開する。ハイマダラノメイガの発生予察では、この花枝を調査単位としている。

(3) 防除上の留意点

ア 本種はアブラナ科野菜を特異的に加害する。

イ 発生盛期である8月中旬～9月下旬頃に育苗や播種・定植をする場合は、本種による加害が起こることを前提とした防除に努める。

ウ 幼虫が生長点を加害するため被害が大きく、被害を確認してからの防除では手遅れとなるため、育苗期や定植直後の予防的防除に努める。

エ 播種・定植時や育苗期に、粒剤や灌注で薬剤処理をした場合でも、その後の被害発生に注意する。天候等の条件により期待した防除効果が得られないこともあるので、本圃での薬剤防除の準備^{ほんぼ}をしておくことが望ましい。

オ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

2 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月におけるフェロモントラップの合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で692.2頭（平年値665.7頭）、朝来市（北部農技内）で240.4頭（同232.3）とほぼ平年並の誘殺が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件になるうえ、本種の発生最盛期を迎えるため、野菜類での被害の発生に注意が必要である。前述のとおりダイズでは幼虫の発生（白変葉）が認められている。

(3) 防除上の留意点

ア ピーマン、ナス、キャベツ、レタスをはじめ、多くの野菜類を加害する。

イ 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢期の防除を徹底する。

エ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

3 【シロイチモジヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月におけるフェロモントラップの合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で64.1頭（平年値96.5頭）、南あわじ市（淡路農技内）で564.7頭（同325.5頭）とほぼ平年並の誘殺が確認されている。

イ 9月上旬のネギ圃場における現地調査では幼虫による被害株率17.0%（昨年同期22.7%）、発生圃場率91.0%（同100%）の発生が確認されている。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件になるため、野菜類での被害の発生に注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア 本種の加害植物は、ネギをはじめキャベツ、ピーマン、ナス、レタス等、多くの野菜類のほか、豆類、花き類など広い範囲に及ぶ。

イ 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、定植直後の被害には特に注意すること。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

果樹共通

1 【果樹カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は裏年（発生の少ない年）に該当する。8月の予察灯（チャバネアオカメムシ）の合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で20.8頭（平年値6.5頭）、朝来市（北部農技内）で201.5頭（同377.6頭）、南あわじ市（淡路農技内）で11.0頭（同7.7頭）とほぼ平年並の誘殺が確認されている。

イ 今後1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件になるため、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 飛来状況は地域や圃場で異なるため、圃地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。

イ 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

- * この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>